

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
【部門区分】第 7 部門第 1 区分
【発行日】令和 6 年 10 月 17 日(2024.10.17)

【公開番号】特開 2023-174009(P2023-174009A)
【公開日】令和 5 年 12 月 7 日(2023.12.7)
【年通号数】公開公報(特許)2023-230
【出願番号】特願 2022-86609(P2022-86609)
【国際特許分類】

H 0 1 R 13/6591(2011.01)

10

H 0 1 R 13/74(2006.01)

H 0 1 R 24/38(2011.01)

【F I】

H 0 1 R 13/6591

H 0 1 R 13/74 H

H 0 1 R 24/38

【手続補正書】

【提出日】令和 6 年 10 月 8 日(2024.10.8)

【手続補正 1】

20

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0083

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0083】

< 効果等 >

以上のように構成されたコネクタ 30 によると、外導体 40 の外周側で、外導体 40 の周方向に沿って並ぶ複数のパネ接続部 62 のそれぞれは、外導体 40 の中心軸 X に沿ってみて、開口 54 (第 2 開口 67b) の縁から外導体 40 に向かって延びて外導体 40 の外周部に弾性的に押付けられている。このため、製造誤差、第 2 ケース 14 の熱膨張収縮等に起因して、接続相手導体 50 と外導体 40 との相対的な位置が変動しても、パネ接続部 62 が安定して外導体 40 に押付けられる。これにより、外導体 40 と接続相手導体 50 とがより確実に電氣的に接続される。また、複数のパネ接続部 62 のそれぞれは、外導体 40 の中心軸 X に沿って見て、開口 54 (第 2 開口 67b) の縁から外導体側に向かって延びているため、パネ接続部 62 の間の隙間を小さくし易い。仮にパネ接続部が外導体 40 から開口 54 (第 2 開口 67b) の縁に向かって延びて、接続相手導体の延長筒部に押し当てられる構成を想定する。この場合、パネ接続部の先端部を基端部よりも太くすることは難しいことが想定される。このため、外周側の延長筒部に近い側で、パネ接続部間の隙間が大きくなる。本実施形態では、例えば、介在筒部 67 を延長した筒部分を周方向に沿って分割し、当該分割された各部を内側に曲げて各パネ接続部 62 を形成することができる。このため、隣合うパネ接続部 62 の間の隙間をなるべく小さくできる。これにより、外導体 40 と接続相手導体 50 とが繋がる部分で隙間をなるべく小さくすることができ、電磁シールド性を高めることができる。

30

40

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0094

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0094】

上記実施形態においては、コネクタ 30 の接続対象が同軸ケーブルであることが想定さ

50

れ、コネクタが 1 つの内導体を備える例が説明された。例えば、コネクタの接続対象が 2 つの芯線を備えるケーブルである場合等には、コネクタは、複数の内導体を備えることも想定される。

10

20

30

40

50